

# ベラルーシ公開情報とりまとめ

(9月9日～9月15日)

2024年9月23日  
在ベラルーシ大使館

## 【主な出来事】

- クアン・ベトナム公安相一行のベラルーシ訪問(9月8日、9日)
- ルイジェンコフ外相の香港実務訪問(9月10日～12日)
- フレニン国防相の中国訪問(9月12日～14日)
- アフマディヤーン・イラン国家安全保障最高評議会書記のベラルーシ訪問(9月13日)
- ロシアの偵察型無人航空機等によるベラルーシ領空侵犯(9月13日、14日、16日)
- 政治犯37名に対する新たな恩赦の発表(9月16日)

## 【ルカシェンコ大統領動静】

### ●北朝鮮「建国記念日」に寄せた金正恩・北朝鮮国務委員長宛祝電

・ルカシェンコ大統領は、北朝鮮「建国記念日」に寄せて、金正恩・北朝鮮国務委員長に宛てて祝電を発出。  
・同祝電には、「貴国の人民は、集団としての意思が揺るぎないものであり、独自性を志向していることを、その歴史を通じて何度も明らかにしてきた。全世界が、朝鮮民主主義人民共和国が誇りを持って独立国として発展する道筋を進んでいる様を目にしている」と述べられている。

・ルカシェンコ大統領は、ミンスクと平壤の間の対話が、あらゆるレベルにおいて劇的に活発になっていることを指摘し、「ミンスクと平壤は、農業・医療・製薬・教育といった分野における実務的な連携の構築において、間もなく目覚ましい進展を実現すると確信している」と強調した。

・ルカシェンコ大統領は、金正恩・国務委員長に対しては、同委員長が健康で、首尾よく活動できることを、また北朝鮮人民に対しては進歩・安定・幸福をそれぞれ祈念した。

(9月9日 大統領府)

### ●政治犯釈放に関する発言

・ルカシェンコ大統領は、国内の政治問題と選挙活動の準備に関する会議の中で、抗議活動関連で有罪とされた人々の恩赦につき、「彼らは喜んだだろう、少なくとも感謝しただろう。いや、彼ら(民主勢力)は、自分

たちが大きな貢献をして、「独裁者にこのような決断をさせた」ことを内外に証明することで頭がいっぱいなのだ。誰も自分(ルカシェンコ大統領)に強制することはできないのである」と発言。

・また、釈放の理由は様々である旨述べ、「なぜ彼らを引き留めておき、国家予算で食事を与えなければならぬだろうか。我々は彼らを釈放した。彼らは法執行機関の完全な管理下にある」と付言した。

(9月10日 大統領府)

### ●フィツォ・スロバキア首相の60歳の誕生日に寄せた祝電

・ルカシェンコ大統領はフィツォ・スロバキア首相が60歳を迎えたことを祝福するとともに、自身の70歳の誕生日に寄せた同首相からの祝意に感謝を表明。

・フィツォ首相の資質を賞賛し、フィツォ首相との直接会談及び同首相のベラルーシへの訪問への期待を表明。

・スロバキア民族蜂起(SNP)80周年記念式典にベラルーシ代表団が招かれ、丁重な応対を受けたことに対しても改めて謝意を表明。

(9月15日 大統領府)

## 【外交】

### ●タジキスタンとは自国民に対して、ベラルーシへの渡航を一時的に控えるよう勧告

・タジキスタンは、自国民に対して、ベラルーシの空港での入国審査が厳格化しているとして、一時的にベラ

ルーシへの渡航を控えるよう呼びかけを行った。  
(9月10日 在ベラルーシ・タジキスタン大使館)

### ●ルイジエンコフ外相の香港実務訪問(9月10日～12日)

- ・9月11日、施俊輝・香港特別行政区教育局副局長と会談し、教育分野における今後の複数のプロジェクトや若者の交流につき協議。
  - ・また香港特別行政区政府の経済部門とは、貿易面・経済面での協力を増進させる具体的な措置や仕組み、さらには実業界を通じた接触の強化等を協議。
  - ・さらに第9回「一帯一路」イニシアチブ首脳会合の開会式に出席するとともに、「香港抗戦・海防博物館」を訪問。
- (9月11日 外務省)

### ●ラトビア議会がベラルーシで登録された乗用車の 同国乗入に関する法律の改正案を採択

- ・2024年10月31日までに、ベラルーシで登録された乗用車の所有者は、①ラトビアから退去するか、②当該車両をラトビアで改めて登録すること。このいずれかが行われない場合、当該車両は没収され得る。
  - ・以下に該当する場合、11月1日以降も乗入可
  - ①ラトビアを通過するだけである場合、事前申請の上で1回限り乗入可
  - ②ベラルーシ駐在外交団の車両や人道目的での乗入の場合
  - ③身体に障がいのある者が、相応の特別な装備を施したベラルーシで登録された自身が保有する車両に乗ってラトビア乗入を希望し、ラトビアに居住する親・子・配偶者等への訪問を希望する場合
  - ④ラトビアの国家安全保障に関わる特別な事情に関してラトビア入国が申請され、ラトビア外務大臣が同申請を検討するよう要請する場合
  - ・本改正案は公布日をもって施行される。
- (9月11日 「ゼルカロ(鏡)」)

### ●アフマディヤーン・イラン国家安全保障最高評議会 書記のベラルーシ訪問

- (1)ルカシェンコ大統領との会談

- ・ルカシェンコ大統領は、制裁や情報面を含むその他の圧力にも関わらず、ベラルーシ・イラン両国が持ち堪えていること、世界が多極的な方向へと動いており、イランやその他の諸国においてもそのことが理解されていること、BRICS や上海協力機構(SCO)といった新たな組織が有効に活動していること等を指摘。
- ・またルカシェンコ大統領は、安全保障が有効なのは、経済が動き、国と国の間で貿易・経済関係が実にしっかりとまた活発な発展を遂げている場合であるとして、ペゼシュキアン・イラン大統領をベラルーシに招待するとともに、両国首脳会談までに経済、貿易・経済関係、安全保障、軍事技術協力等の分野でしっかりと準備する必要性を強調。

- (2)ヴォリフォヴィチ安全保障会議国家書記との会談
  - ・ヴォリフォヴィチ国家書記は、ベラルーシとイランのより緊密な連携は、欧州地域だけではなく世界全体における平和と安全の達成に資すること、ベラルーシとイランは、多極的な世界を構築して発展させるために闘争していることを強調。
  - ・またヴォリフォヴィチ国家書記によれば、イラン側からは、制裁に対抗する同盟を形成し、ベラルーシ・イラン両国ともに社会的・経済的に発展し、国民の福祉を増大させられるようにしたい旨提案があった。
- (9月13日 大統領府、国営ベルタ通信)

### 【内政】

#### ●帰国したベラルーシ人が拘束される事例が後を絶たず

- ・人権団体「ヴァスナ(春)」によれば、2024年初頭以降、ベラルーシへの帰国に伴って55人以上が拘束されており、そのうち17人が刑事告発されている。実際数はもっと多い可能性がある。
- ・取り調べや拘束の理由となっているのは、当該人物が独立系メディアを購読していたり、携帯電話やSNS上から抗議行動に関連していたことが特定できる場合や、さらには旅券からウクライナを訪問したことが判明する場合等。
- ・「ヴァスナ」は、2020年以降に同年の大統領選挙を巡る抗議行動にわずかでも関わりがある人の場合、ベラルーシに帰国すれば迫害に遭うリスクが極めて

高いことを改めて警告。

(9月13日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

### ●政治犯 37 名に対する新たな恩赦の発表

・9月16日、ルカシェンコ大統領は、政治犯 37 名の恩赦に関する大統領令に署名。内訳は女性 6 名、男性 31 名で、慢性疾患を持つ者や障がい者、年金受給可能年齢の者も含まれている。

・ラトウシコ元文化大臣(「統一移行内閣」副首班)は、ルカシェンコの行為を「恩赦」と呼ぶのは不適切であると主張。さらに、民主勢力の中でも、ルカシェンコの「恩赦」に感謝する人々がいることを批判し、弾圧が続く限り、ルカシェンコの行為に肯定的なシグナルを見いだすことは無意味である旨強調。

・チハノフスカヤ民主勢力代表は、今次恩赦を歓迎しつつも、新たに政治的理由で拘束され、有罪判決を受ける人々が増加している現状を憂慮。ルカシェンコ政権は、「犯罪者」を釈放しているかのような幻想を作り出している旨指摘し、全ての政治犯の釈放を目指して引き続き全力を尽くす旨述べた。

(9月16日 大統領府、ラトウシコ氏 Telegram、チハノフスカヤ氏公式サイト)

### ●9月13日現在の政治犯の数は 1,344 人

(9月13日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

### 【軍事・安全保障】

#### ●クアン・ベトナム公安相一行のベラルーシ訪問

・クアン・ベトナム公安相一行は、ベラルーシ内務省人材訓練センターを訪問し、最新機材や装備を視察。また国内軍や特殊部隊(OMON)による大規模騒擾の防止や人質救出の実演を見学。

・またクアン公安相は、クブラコフ内務大臣、ルカシェンコ大統領、ヴォリフォヴィチ安全保障会議国家書記と会談。

・ルカシェンコ大統領は会談の席上、ベラルーシとベトナムがソ連時代以来の友好関係にあることに加え、両国の国際情勢に対する認識の相似や、両国ともに多極的な世界に賛成の立場であることを強調。ベトナムとの関係強化への意欲を表明。

(9月8日 国営ベルタ通信、9日 大統領府、国営ベルタ通信)

### ●フレニン国防相の中国訪問(9月12日～14日)

#### (1) 両国防相会談

・フレニン国防相は中国との協力分野につき、ベラルーシの軍事教育機関における中国の軍人に対する教育や、平和維持活動におけるベラルーシ・中国両国の連携につき特に言及。

・董軍・中国国防部長(国防相)は、ベラルーシと中国の間の軍事面での協力をさらに高い水準に引き上げる意向であることを言明。

#### (2) 第 11 回北京香山フォーラムへの出席

・西側の世界的な影響力が凋落し、「旧世界」の体系は危機に瀕するようになっている一方で、多極性の種がまかれ、多様性へと変わりつつある。時代は我々に、「ゲームのルール」を変えるための取り組みを始めるよう求めている。

・将来の世界秩序の基礎をともに据える必要あり。それは、上海協力機構(SCO)、ユーラシア経済同盟(EAEU)、BRICS といった既存の国際機関や、新たに形成されている国際機関に依拠するものとなる。その参加者は、他者の意見を力づくで押し付けられることのない多極性に賛成してきたし、今も賛成している。こうした文脈において、ベラルーシは 21 世紀における多様性と多極性に関するユーラシア憲章の策定を提唱。

・平和と安全を確保して共通の未来を作り上げるといった問題全てを解決し得るのは、実際に世界的な多数となっている者なのであって、閉ざされた西側諸国によるクラブなどではない。

(9月12日、13日 国防省)

### ●ロシアの偵察型無人航空機等によるベラルーシ領空侵犯

・9月13日 19 時頃には、「オルラン」型の偵察型無人航空機(UAV)がウクライナのチェルニヒウ州から侵入。同日 20 時すぎの時点では、ベラルーシ南東部ゴメリ州上空において同国軍機は確認されず。

・9月14日 4:10 頃から、「シャヘド」型 UAV がベラルーシ領内に 30 分にわたって侵入。ベラルーシ軍機も

哨戒飛行。

・9月16日3:10頃から、「シャヘド」型 UAV がベラルーシ領内に20分にわたって侵入。ベラルーシ軍機による哨戒は確認されず。

(9月13日～16日「ベラルスキ・ハユン」)

### ●ベラルーシから欧州への不法越境の試み

(9月9日～9月15日)

・リトアニア国境警備局は少なくとも40人を阻止。

・ラトビア国境警備隊は少なくとも110人を阻止。

・ポーランド国境警備隊は少なくとも833人を阻止。

(9月10日～9月16日「ポジルク」)

## 【経済】

### ●ジンバブエに対し、干ばつ被害の克服のため約37万米ドル相当の支援を実施

・非常事態省は、干ばつの被害が深刻なジンバブエ北部に対して、ディーゼルポンプ装置、衣料品、食糧、生活必需品等計120万ベラルーシ・ルーブル(約37万米ドル相当)の支援を実施。

(9月12日 国営ベルタ通信)

## 【民主勢力の動き】

### ●チハノフスカヤ民主勢力代表の動向

・9月13日、国際会議「ベラルーシにおける犯罪と人権侵害に対する説明責任」の開会式で演説。演説の中で、チハノフスカヤ氏は、国際的な支援と、ベラルーシ国民に対する弾圧の責任者を裁くことの重要性を強調。

・同日、ビリニウスを訪問中のキャンベル米 국무副長官と会談。チハノフスカヤ氏は、政治犯釈放のための国際的努力、2025年の大統領選挙を認めないこと、米国と民主勢力の間の対話を継続することへの意欲等につき発言。

(9月13日 チハノフスカヤ氏公式サイト)

(了)